

令和4年3月29日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

令和3年度最後の記者会見です。どうぞよろしくお願いいたします。さて、今日、発表報告はございません。まん防への協力をお願いについて、若干私からコメントをいたします。まん延防止等重点措置が解除され、1週間が経ちました。感染拡大防止にご協力いただいた医療従事者の皆さん、事業者の皆さんをはじめとする全ての市民の皆さんに、ご協力に対して改めて御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。既に御幸通りには赤いちょうちんが見えておりますが、今週末金曜日、4月1日から第66回の静岡まつりを開催させていただきます。大御所役には俳優の鈴木福さん、静岡出身の保阪尚希さんの両名を迎え、2年ぶりに大御所花見行列も行われます。また、夜桜乱舞を楽しみにしている市民の皆さんも多かろうと思います。開催にあたっては、実行委員会が新型コロナウイルス感染症予防及び拡散防止対策についてのガイドラインを定め、メインの会場である駿府城公園では入場口での手指の消毒、検温など、基本的な対策を徹底するとともに、出店者の皆さん、出演者の皆さんにも三日前から検温結果を提出していただくなど、体調の管理を求めています。来場される皆さんも事前の体調管理とか、あるいは消毒とか、あるいは黙食などのご協力をお願いして、みんなで和やかにこの祭りを盛り上げていきたい、くらしを取り戻していきたいと願っております。

さて、この静岡まつりを皮切りに、1年を通じて静岡市内各地域で公民連携でさまざまなイベントが開催されます。5大構想の一つの公共政策として打ち出している「まちは劇場の推進」、これを新年度も押し進めてまいります。春、夏、秋、冬、四季折々のイベントや地域特有のイベント、文化行事などをパッケージ化することによって、これは施政方針でも申し上げたことでありますけれども、来るポストコロナの時代に向けて国内外から誘客を目指す、交流人口の拡大を目指す、そして、これは文化政策であり経済政策であるという波及効果も求める基盤を整備して、形を取り戻していきたいというふうに感じております。その第1弾がこの静岡まつりであるわけですが、多くの春のイベント、春のフェスティバル、春フェスというふうに私たちは称していますが、これから桜から新緑のシーズン、5月にかけて日本平とか駿府城公園などの舞台となる「ふじのくにせかい演劇祭」、あるいは「ストレンジシード静岡」、あるいは七間町や鷹匠町の街角、あるいは清水港が会場となる「シズオカ×カンヌウィーク」、そして、伝統行事の分野では、先ほどの国の重要無形民俗文化財に指定された「静岡浅間神社初開催の稚児舞楽」なども下支えをしていきたいというふうに思っています。

先月 28 日の記者会見で説明させていただいた、「まちは劇場 T R Y ´ 22、これも奨励金、3 月 18 日までに 25 件の応募をいただきました。春フェスとしての応募は 4 月 28 日まで受け付けておりますので、対象となるイベントの開催を計画している皆さん方にはぜひこれを活用していただき、一緒に春フェスを盛り上げていただきたいというふうに思います。

最後に、今月 25 日に田中保健所長から説明させていただいた通り、ワクチンの接種には感染リスクを下げる効果が確実にあります。静岡市では明日と明後日と 4 月 2 日にツインメッセ静岡を会場とするワクチン 3 回目接種の予約なし接種を実施しますので、接種券をお持ちの方はぜひこの機会を活用して接種をしていただきたい、感染予防を徹底した上で春フェスにお出かけをいただきたいということをお願いいたします。私からは以上です。

#### ◆司会

それでは、先にここで幹事社質問のほうに入らせていただきたいと思います。幹事社質問のほう、よろしく願いいたします。

#### ◆静岡新聞

幹事社の静岡新聞です。よろしくお願ひします。1 問です。今、ご説明ありましたけれども、県内に出されていたまん延防止等重点措置が解除されて 1 週間が経過しました。解除後の市内の感染状況をどのように受け止めていますか。これまでの教訓を踏まえて、今後どのように感染防止対策と社会経済活動を両立させていきますか。また、第 7 波が到来した場合に行動制限は必要だと考えますか。以上です。

#### ◆市長

21 日から解除されて 1 週間経つわけですが、これが日常生活を取り戻すための第一歩と位置付けておりますが、市内の感染状況を見ると、減少傾向にはあるものの、10 万人当たりの感染者数は高止まりしているという現況です。BA. 2、ステルスオミクロンの件数も高まっていることから、感染の再拡大が懸念される以上、まだまだ油断を許さない状況だと理解しています。これまでの教訓を踏まえた今後の感染拡大防止対策と社会経済活動の両立も計っていかねばなりません。一方、先ほど申し上げました通り、4 月から人の賑わいというものが出てくると思います。活発な消費をして経済活性化も計らねばなりません。一方、オミクロン株による過去最多の感染者数となった第 6 波を経験してきた中の教訓として、弱毒性であっても、重症化しないということであっても、感染拡大によって医療提供体制など、社会システムそのものに大きな影響を与えているということも学びました。その中でどう両立していくか。やはりワクチンの接種が大事だろうというふうに思っています。引き続き、市民の皆さん一人ひとりの感染

予防対策の実施徹底を促し、3回目のワクチン接種の有効性を積極的にPRし、社会経済活動との両立をしていきたい。市民の皆さんの協力もお願いをいたします。

一方、後段の質問の第7波が到来した場合でありますけれども、やっぱり行動制限をせざるを得ない、その必要性やリスクの大きさを市民の皆さん一人ひとりに自ら考えていただく。私たちもずいぶん、この2年で学んでおりますし、慣れてもきておりますので、やはり一人ひとりの市民の皆さんが節度ある行動で自らを律していただくということが一番であります。私ども市行政とすると、それを信頼して、やるべきことをきちんとやっていきたいと、感染予防対策を継続していきたいというふうに思っています。

#### ◆司会

それでは、ただ今までのところで皆様からのご質問をお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

#### ◆読売新聞

読売新聞社です。市長、冒頭、春のイベントのキックオフについてお話しされましたけれども、静岡を代表する春のイベントと言いますと、これまでは静岡マラソンもあったと思います。3年連続中止になっておりますが、市長は先日、おでん祭りの実行委員会との懇談の席上で、静岡マラソンは今、難しい局面にあるという発言をなさいましたけれども、難しい局面とはどのような局面でしょうか。これは廃止も含めた検討がなされているということでしょうか。

#### ◆市長

廃止は検討しておりません。ただし、マラソンというイベントの性質上、やっぱり健康とか命に関わることですから、より慎重に準備をしなければなりません。医療のバックアップの体制等々、慎重な検討が必要です。焼津マラソンでの事例もあることはご承知のことかと思えますけれども、そういうスポーツイベント特有のリスクということを考えると、これはコロナ禍の中、やっぱり慎重に準備をしていかなければいけないという主旨であります。

#### ◆読売新聞

今、お引き合いに出されました焼津マラソンは予定通り4月に実行するということが案内状も届きましたし、東京マラソンも実行されました。みんな、各メイン都市のマラソン大会はそういったものを配慮した上で実際に実行をしているところがほとんどでございますが、静岡の場合はそういった自治体とは違うということなのでしょうか。

◆市長

それから、実施主体をどうするかという問題もあります。静岡朝日テレビさんが中心に事務局を担っていただき、商工会議所と私どもがそれを実行委員会の形で旗を振るといような構成になっている公民連携のイベントですが、商工会議所の皆さんと、どうい実施主体でこれから静岡マラソンを復活させるかと、目下検討しているところであります。

◆読売新聞

実施主体のあり方も含めて、継続に向けて検討中というふうに受け止めてよろしいでしょうか。

◆市長

おっしゃる通りです。かつての静岡けんみんテレビさんの駿府マラソンの歴史の中から、ハーフマラソンをフルマラソンにしていきたいということが静岡朝日テレビさんの最初の私どもに対する要望でありました。しかし、距離が2倍でも経費は4倍以上、ものすごく莫大な経費がフルマラソンにはかかります。そのことをどういうふうに負担をしていくのかということも含めて、これから検討していかなければならないということで、まずは商工会議所の酒井会頭と私、あるいは事務方同士がこれからのあり方について、目下検討を深めているところだというご理解をお願いします。

◆司会

その他、いかがでしょうか。朝日テレビさん、お願いいたします。

◆朝日テレビ

朝日テレビですが、よろしく申し上げます。駿府城公園の桜もそろそろ見ごろを迎えてきましたけど、コロナ禍でのお花見ということで、そのあり方について、市民へどういう呼びかけをされていきたいと思いませんか。

◆市長

本当に節度ある行動をお願いしたいということに尽くされるというふうに思います。やはりお花見をしたいという気持ちは多かろうと思います。駿府城公園、あるいは清水の船越堤の公園、こういうお花見スポットに行かれる方は基本的な感染防止対策を徹底していただくとともに、宴会はできれば自粛してほしい。飲食の有無や人数に関わらず、騒ぐことは自粛してほしい。今、大声を出し過ぎることが感染拡大につながるリスクがありますので、その辺りは節度ある行動をお願いしたいと思います。

◆朝日テレビ

それと、先ほどおっしゃった静岡まつりですけれど、このコロナの高止まりの中で、やはり実施、人出がかなり増えるのはかなり不安な要素もあるのではないかと思いますのですが、その点はいかがお考えでしょうか。

◆市長

おっしゃる通りだと思います。しかし、2つのL i f eの両立という、ぎりぎりのことで、静岡まつりは開催しよう、これは実行委員会の考え方もあると思います。先ほどの静岡マラソンのほうは、実行委員会のほうがやはり慎重になっているということで、このスポーツイベントは中止をしました。しかしながら、静岡まつりは、実行委員会のほうは、今年は2年ぶりにやろうじゃないかという決意をされたので、行政はそれを支えていきたいと思っています。

◆司会

その他、いかがでしょうか。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

SBSです。今のことに絡めてなんですけれども、お花見の話もありましたけども、市民の皆さんに静岡まつりに参加される際に、ぜひこういうことを守ってほしいとか気を付けてほしい点、あれば教えていただきたいのですが…

◆市長

祭りという性格の中ではありますけれども、やはりコロナ禍の中にあるということを目覚めさせていただいて行動をしてほしいということと呼びかけたいと思います。

◆SBS

何か具体的に、先ほどの宴会みたいなお話しもありましたけれども、こういった行為はやめてほしいとか控えてほしいというものがありませんか…

◆市長

大きな声を出すような、大騒ぎということは控えてほしいと思っています。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。市長に伺っておきたいのは、今、自粛、節度ある行動ということで呼びかけられましたけれども、市長ご自身がまん延防止重点期間措置中に会食をされて、そのときに、日頃からコミュニケーションを取れている相手に、健康状態に問題がないということが、お互いが確認できていれば会食をしていいんだということを主張されたということに対して、市民からいろんな意見が、納得しない意見もたくさんあったかと思いますが、そういった中で、市長のその呼びかけに対する力ですとか、説得力を市民はどう受け止めればいいのか、市長はどうご自分の発信力を評価されているのか、お聞かせできますか。

◆市長

それは今、市長の立場ですので、やっぱり言うべきことは言わなければいけないというふうに思っています。

◆NHK

ただ、そこから先は市民の判断で、市民がこれは問題ないんだと判断したら、それは市として別に構いませんよという、2月にあった説明そのままなのでしょうか。

◆市長

私は節度ある行動をお願いするということに尽きると思いますので、それをどう受け止めて、「市長がそう言っているのだったら、よし、守ろう」というふうに思ってくれる方もいらっしゃるだろうし、「市長、自分はあることしたじゃないか」と、「別にいいじゃないか」というふうに思われる方もいらっしゃるかもしれません。それはやむを得ないことだろうと思います。

◆NHK

ありがとうございます。

◆司会

その他、幹事社質問まででいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、その他のご質問をお受けしたいと思います。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。浜松市でいじめに不適切な対応をしたという問題がありました。鈴木康友市長がいじめ問題に対応する調査チームを設けたいという考えを表明されて、静岡市でも、他都市の話しですけど、問題を教訓に何かいじめ関連で検討していること、ございますでしょうか。

◆市長

いじめというのは、本当に私たちはあってはならないというふうに思っています。ですので、この浜松の事案というものも私たちは研究をして、新年度に向けて和やかな学校生活をしてもらう環境を作っていきたいと思っています。

◆中日新聞

それは教育委員会主体なんですか。それとも、鈴木市長の話だと教育委員会とは別という話で、市長部局なり、そちらのほうで設けていくという、研究をしていくということなのでしょうか。

◆市長

ご存じのとおり、目下、法律の建付けが変わって、総合教育会議を実施しております。従前よりも市長部局と教育委員会の壁というのがなくなっております。独立委員会制度は今でも保っていますけれども、でも、私たち市長部局でも教育行政にコミットをしていると、責任を持っているということが趨勢でありますので、私も、まちづくりは人づくりという問題意識から、教育行政には注意を払っていきたい、というふうに思っています。

◆中日新聞

軽い下調べで恐縮ですけども、静岡市で「こころの教育支援事業」というもの、検索すると出てきましたけれど、他、いじめを未然に防ぐための取組、改めて静岡市で紹介いただければと思いますけれども…

◆市長

こころの教育センターの、その一環です。さまざまな取り組みを今回、議会に承認していただいてやっていくと。スクールカウンセラー制度もそうですし、質、量ともに万全の体制を取っていきたいというふうに思っています。

◆中日新聞

もう1点は別にやったほうがいいですか。

◆司会

そうですね。

◆市長

どうぞ。

◆司会

では、他にいかがでしょうか。では、NHKさん、お願いします。

◆NHK

すみません。NHKです。前回は話題に上がりましたスタジアムについて伺いたいのですけれども、市長は建設費の費用負担についての質問に対して、公民連携で臨みたいということをおっしゃいましたが、これまでも市議会で吹田スタジアムの事例が引かれてきました。民間で100億円集めて、民間が財布つくって市に寄付するという形式でしたけれども、こういったことを静岡市でも可能とお考えかお聞かせください。

◆市長

いずれにしても、令和3年度、全国のさまざまなスタジアムの整備についての取り組み方についての調査をしておりますので、それを今、取りまとめていて、今後に向けて参考にしたいと思っています。

◆NHK

公民連携というのがどういった意味合いか、吹田のような民間で100億円もということは静岡市も参考にしていきたいのか、いかがでしょうか。

◆市長

この前、申し上げたかとは思いますが、吹田の例というのは参考になるな、というふうに私は申しています。

◆NHK

一方で、関西経済界こぞって集めて100億円で、ガンバも確かあのとき三冠を取って非常に人気があって地域で盛り上がって、それで100億円だったと。今の静岡経済界でそれに匹敵するような額、エスパルスの人気具合、成績含めて、その辺り、どう評価されていますでしょうか。



◆市長

まだ、記者、そこまでの議論に踏み込むのは、やっぱり早いのではないかなと思っています。まず候補地をどこに決めていくのか、市民の要望も受けながら、我々は考えていかなければいけないので、当然ながら経済界の皆さんともいろいろな会話をして、作業する方向で検討を進めていきたいというふうに思っていますが、そこまで、これから一体化しているという、目下ではありません。

◆NHK

ただ、民間からの寄付なしにはできないというか、公だけではできないというお考えですか。

◆市長

もちろんです。

◆NHK

分かりました。あと、これは実名でご紹介していいかと思いますが、静岡商工会議所の酒井会頭のご発言として、清水駅東口のENEOSの土地を念頭にですが、アクセスがいいというのは逆にそのまま帰りやすい場所でもあると。ですので、来たお客さまをどうやって楽しませるか、滞留してもらうのかというのは併せてやらないといけないというお考え、おっしゃっておられました。この辺り、市長はどうお考えでしょうか。

◆市長

全国的な趨勢として、交通アクセスのいいところに新しいスタジアムを整備するという事は私たちも念頭に置いております。ただし、やはり、これは、先ほども申し上げました通り、経済界の皆さんと、どういう枠組みをするかという以前に、議会の中でもきちっとした議論が必要だと思えます。議会の皆さんとも、まだまだ議論が熟度を達していませんので、そんな声も受けながら、一つ一つステップを踏んでいきたいと思っています。

◆NHK

結果的にENEOSの土地が注目されていますので、あそこに来てもらったお客さんが来て帰るだけになるのか、他に清水や静岡のところを楽しんでもらえるような、何かビジョンがあるか、その辺りはいかがでしょうか。

◆市長

もちろん、どこに造るにせよ、何万人という方々がスタジアムに集まったならば、

サッカーの観戦プラスアルファの付加価値があるということが魅力だろうと思います。観戦の前にショッピングに行くとか、観戦が終わった後、食事に行く、そういう流れの中で地域経済の活性化を期待したいというふうに思っています。

◆NHK

どういうふうに周遊をしてもらおうかという、何かビジョンはお持ちなのでしょうか。

◆市長

それは、仕掛けはします。でも、行動されるのは観客の一人ひとりの皆さんですから、そこまで拘束をすることではありません。遊園地もできたことですし、いろんな楽しみ方があるのではないかなというふうに思います。

◆NHK

分かりました。すいません。建設費にもう一度戻りますけれども、民間の協力も仰ぎつつ、市もかなりの負担をしなければいけないのだろうなという、吹田みたいに丸ごと民間と助成金で造ってもらって寄付してもらおうということは無理だろうなというような見通しは持っていらっしゃいますか。

◆市長

それは四次総の策定の議論の中で検討していきたいと思っています。財政規律は堅持しなければなりません。その中できちっと議論をしていきたいと思っています。

◆NHK

市のある程度の負担については、する必要性は感じていらっしゃる。

◆市長

もちろん公民連携でやりますので、それは考えています。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。先にテレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。三保の松原の売店の跡地の活用についてお聞きします。先日の市議会

の委員会でも、跡地活用について市の担当者は「この場所にふさわしい松を植えたい」と、言ってみれば三保由来の松を植えたいという答弁がありましたけれども、まず、その方針について市長は、どのように今、認識、考えていますでしょうか。

◆市長

目下いろんな意見に耳を傾けているところです。

◆テレビ静岡

担当者のほうは三保由来の松を植えたいとおっしゃっていましたが、それを前提に検討しているということでしょうか。

◆市長

そうですね。とにかくあの場所が世界遺産になったという大きな枠組みの中では、松をどう保全していくかということが大事な要素ですので、それはあります。ただ、保全だけではなくて活用していく、つまり、先ほどの話と関連しますけれども、そこに人を呼び込んでいくという活用も考えなきゃいけません。そのことを考えると、どういう土地利用がいいのかということは検討の余地があるかと思っています。

◆テレビ静岡

まだ決まったわけではないということですか。

◆市長

もちろん。これも四次総の議論になるのじゃないかなと思います。

◆テレビ静岡

一方で ICOMOS も保全の重視から保全と価値の共有ということをやっていると思うのですが、その価値の部分で、今おっしゃった活用方法もあると思うのですが、地元の若手の経営者ですとか、若い中学生、高校生、大学生あたりが、この場所の活用方法について、結構協議を続けているというか、話し合いもしていて、そういった声の中で、ただ松を植えるだけではなくて、この場所の価値を共有できる体験型のコンテンツですとか、そういったものも検討してほしいという要望もあるのですが、そういったのを市長は耳を傾けるというか、直接、聞いたりとか、今、そういう用意はありますでしょうか。

◆市長

その提言を私は受けております。ですので、若い方々の発想でデジタルというキーワー

ドを駆使して、先ほどの三保松原の活用という、強化していくというのは魅力ある提案だろうというふうに思っています。いわば、「懐かしい未来」の一つの形だろうと思います。施政方針のときに私が申し上げました「懐かしい未来」、白砂青松の松という、ずっと古くから伝わってきた価値にデジタル技術を駆使して、そこをどう魅力的に見せるかという付加価値を作っていくということは、すごく大事だろうというふうに思っていますので、そのあたりはフレキシブルに考えていきたいなと思っています。

◆テレビ静岡

そうしますと、答弁であった「この場所にふさわしい松を植えたい」というのは、いったんゼロベースで考えて、あらゆる活用方法を模索していく、ということでしょうか。

◆市長

やはり松原対策等々で松の保全ということに、非常に今まで神経を使ってきた立場からすると、それが原則ではあるかと思えます。

◆テレビ静岡

原則であるけれど、他の方法もまだ検討するということがいいですか。

◆市長

おっしゃる通りです。市長としてはそう思っています。

◆テレビ静岡

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。よろしいですか。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。高橋雨水ポンプ場が工事を再開しましたけれども、一方で、管理者のほうからも前回だったり前々回のレクだったり、年度内に早めに処分公表と自分も聞いていました。もう今年度、残りあと3日ですけれども、市長の元にどれぐらいの報告が現在届いていらっしゃるでしょうか。

◆市長

3月28日から再開をしたという報告はもらっています。

◆中日新聞

19日再開じゃありませんでしたか。

◆市長

3月28日と聞いていますけれども、本体工事ですよ。本体工事については今週の月曜日から再開しております。ただ、全体スケジュールは今、また業者の皆さんと調整中だという報告を受けています。

◆中日新聞

結局、事業そのものはここからまだ時間がかかっていくと思うのですが、処分のほう、建築基準法違反の「あれを指示した」とレクの際に言った、下水道部長の処分というのが、3月で退任されると思いますし、一つ年度内につけないといけないのではないのかなと思いますけれども、その報告が、市長部局の話ではないですけど、市長に報告も入ると思いますし、それが話は入ってきているのかなという確認です。

◆市長

まだ入っていないです。公営企業管理者に指示をしたところでありますので、それは一任したいと思います。

◆中日新聞

今年度中に出さなくていいんですか。まだ市長の元に届いていないとなると、結構、今年度中は厳しいのではないのかなと感じられますけれども。

◆市長

今年度中でなくても、やはり公営企業管理者の責任において、きちっとした処分をしてほしいと思っています。

◆司会

その他、いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞社です。集客の話があったので、ついでにもう1件聞かせてください。市議会の観光文化経済委員会でNHKの大河ドラマ館について、入館目標者を50万人というふうな事務局から説明があったと聞いたのですが、これは、やや、かなり過大な目標ではないかという気がしたのですが、それを市の目標として掲げるということでは

よろしいのでしょうか。

◆市長

私、この前、その協議会があったときに発言をしたのですけれども、きちっとエビデンススペースで 50 万人、どこから 50 万人呼ぶんだと、もう少し精査をするようにという発言をしました。例えば、個人客と団体客、このNHKの大河ドラマの施設を一つ目玉にして、恐らくパッケージ旅行、団体旅行の商品も開発されるでしょう。そういった団体客なのか、あるいは個人客なのか、あるいは市内の方々が行くのか、市外、県外から来てもらうのか、この 50 万人がどういう組成から成り立っているのかと、そのところをもう少し具体的にマーケティングした上で、数字は積み上げるべきではないかということを手前、協議会のところでも申し上げました。

◆読売新聞

そうしますと、改めて精緻な推計をした上で目標を示したいということですよ。

◆市長

これは協議会の皆さんがストレッチ目標として 50 万人と、非常に大まかな目標、かなり高い目標を掲げたということは尊重いたしますけれども、その精緻化は必要だろうというふうに思っています。

◆読売新聞

了解しました。

◆司会

その他、いかがでしょうか。よろしいですか。では、NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。三度すみません。大河ドラマについて少し伺いますが、市長は来年2月、歴史博物館のオープンイベントにドラマのキャストを呼べないかという要望を持たれていることを聞いております。職場でも気になって議論をすることがあるのですけれども、タナベノマスクの一件があったので一応確認しておきますが、そういったドラマの俳優などに来てもらうことを、何か、ご自分の政治的な人気の回復とかに結び付けられるとか、そういった意図はお持ちなののでしょうか。

◆市長

これも雑談の中で呼べたらいいなと酒井会長とも話をしているということですので、

そんな意図は全くありません。

◆NHK

分かりました。それと、先ほど 50 万人の議論の中でエビデンススペースという言葉、市長からありましたので、アリーナのほうについて伺いますけれども、市長は前回の会見の中で、アリーナを整備する意義として、若い人たちが「私たちが望むようなコンサートがあれば静岡でもいいのだけれども、そういうのがないから東京の大学に行くんだ」と、「県外に行ってしまうんだ」ということをおっしゃいました。このエビデンスってなんですか。

◆市長

これは定量的なエビデンスではなくて、定性的な私の肌感であります。いろんな機会を通じて私は市民の方々、若い方々と話をしてきました。それも長い間してきました。そういう中で、コンサート会場、ビッグアーティストが静岡でコンサートのできる静岡をつくってほしいということはよく聞いたところです。

◆NHK

つまり、アリーナのような施設があれば、若者の定住人口が増えるというエビデンスは特にないということですね。

◆市長

それは論理が飛躍していますよね。

◆NHK

ただ、市長が前回の会見でそうおっしゃったわけですから…

◆市長

そんな、定住になるなんていうことを私は申し上げたつもりはありません。そういう肌感があるから、なんとかそういう整備をすれば子どもの流出ということについての一定の効果があるのではないかな、というふうなことを申し上げたつもりです。

◆NHK

分かりました。そして、市長、前回、私が騒音、振動、ごみの問題について、地元の自治会の方が懸念を持っているということを申し上げたときに、直接出向いて話をしたいとおっしゃいましたが、どうされるのでしょうか。

◆市長

その気持ちは今でもあります。ただし、先方のほうから、今は職員との、きちっとその話をしているということも報告を受けております。もう少し見守りたいと思っています。

◆NHK

あのときに非常に私、気になりましたのは、そういった質問を私がしたのに対して、「記者は、アリーナは造るべきではないという考えですか」と、逆に聞き返されましたけれども、これ、どういう意味だったのでしょうか。アリーナが欲しいという意見が一定数あれば、多少の騒音、振動、ごみの問題に地元は我慢してくれるはずだ、というのが市長の考え方なのでしょうか。

◆市長

記者が反対をされる方の代弁をされるということは理解をします。けれども「早く造ってほしい」という市民の声があるということも記者はご承知ですよ。

◆NHK

すみません。エビデンスということであれば、私は造ってほしいという声を直接、エビデンスというのは、今、示せるほどの知見がありません。

◆市長

それは取材してみてください。だから、そういう、いろんな市民の意見がある中で、記者のご所見はどうですか、と聞いたわけであります。

◆NHK

もう一度、質問いたします。造ってほしいという意見がたくさんあれば、地元の懸念は我慢してもらえるということなのかどうかのなかに対してお伺いします。

◆市長

そんなこと一言も申し上げていませんが、それは、同意の形成というのがどんなことでも、やっぱり政治の最も重要な役割でありますので、その同意の形成をしていきたいということでもあります。

◆NHK

そういった懸念については、騒音、振動、ごみの問題が解消した上で進めるということですね。



◆市長

そうですね。ただ、やはり民主主義である以上、全員が賛成とか反対というのは、あり得ないと思います。熟議を交わして、そして同意の形成に向けて丁寧にする中で決断をしなければいけない時は来るというのは、これは一般論ですけれども、でないスピード感を持ったまちづくりというのはできないということも、ぜひご理解をいただきたいと思います。

◆NHK

例えば渋滞の問題について、市長は建設局や国道事務所に必要に応じて要望をしていくとおっしゃいましたが、建設局や国道事務所が渋滞をどう解消してくれるのでしょうか。

◆市長

それはそれで予算を伴うことですし、難しい問題であります。

◆NHK

ただ、市長はその要望によってクリアしていくというような、先日のご回答でしたけれども…

◆市長

やっぱり要望はいろいろあるから、それをどういうふうに関係の諸機関に働きかけていくかということは大事なことですよね、ということを申し上げたわけであります。

◆NHK

では、現時点で渋滞解消策については、特にビジョンはないということでしょうか。

◆市長

そうですね。ビジョンというのは難しいですね、これは。

◆NHK

もう一つ、前回聞けなかった建設費について、結局、あのときの担当課長のご説明も、民間のほうで賄うというのはちょっと難しいと言われていて、行政支援も視野に入れてほしいと言われているということでしたけれども、結局、この建設費、市長はどういうふうに賄っていかうとされているのか。

◆市長

アリーナについてですか。

◆NHK

はい。

◆市長

これも、やはりPFIの手法も検討しておりますし、やはり公民連携でやっていかなければいけない。これからの公共施設は全てそうですよ。全部公設、公営というのはなかなか、大型都市であればあるほど極めて厳しいということはもう常識です。

◆NHK

それはその通りだと思いますが、一方で、課長のご説明でも、民間のほうで賄うのは難しいので、行政支援を視野に入れてほしいと民間側から言われていると、市のほうで何十億円か拠出されるのでしょうか。

◆市長

それも、まだまだこれからの議論ですので、記者の質問は先々の話をし過ぎるので、これは答えようがありません。これから検討していくことです。

◆NHK

そういったビジョンが、まだ見通しがついてないということで承りました。ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、以上で本日の市長の定例記者会見を終わらせていただきます。次回は4月8日の予定になります。よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。